



文化学園リポジトリ

Academic Repository of BUNKA GAKUEN

服飾文化共同研究拠点／文化ファッション研究機構

Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture / Bunka Fashion Research Institute

文化学園大学

Bunka Gakuen University

文化服装学院

Bunka Fashion College

文化ファッション大学院大学

Bunka Fashion Graduate University

文化外国語専門学校

Bunka Institute of Language

Title	上級レベルの学習者の「勉強アンケート」
Author(s)	刈谷 仁美
Citation	文化外国語専門学校紀要 35 (2023-02) pp. 1-9
Issue Date	2023-02
URL	http://hdl.handle.net/10457/00003259
Rights	

上級レベルの学習者の「勉強アンケート」

日本語科 専任教授 刈谷 仁美

・要旨

中級上級レベルの日本語力を来日前に身につけて本校に入学する学生が増えている。そのような学生は来日前にどのような勉強をしているのか、日本での勉強に何を期待しているのかを調べるためにアンケート調査を行った。結果は国での勉強も日本での勉強に期待することもさまざまということが確認できた。また本校での学習により、授業に期待することが変化していることも分かった。

・キーワード

上級レベルの学生、アンケート調査、母国での学習経験、日本語学習に期待すること

1. はじめに

2019年から現在まで筆者は本校のレベル分けで最上位の、4月のコーススタート時点で『文化中級Ⅱ』を学び始めるクラス^{注(1)}を担当している。(以下1、2組)1、2組に振り分けられる学生にはレベルの上限がなく、一定レベルを超えた学生が同じクラスで勉強しているが、在籍学生には日本語におけるさまざまな能力や表現力、各スキルなどに大きな幅がある。これは各学生の学習期間や学習経験の差によって生まれるものであり、本校での学習開始時にはすでに存在している。つまり、1、2組の学生たちは大きく異なったスタートラインから本校での学習を始めることになる。このようなこともあり、1、2組を運営していくうちに、ほかのレベルのクラスとは異なる問題ややりにくさを感じるようになった。

たとえば、レベルが高い学生には、もう学習済みで必要ではない項目を授業で扱っていたり、反対にレベルがそれほど高くない学生が必要とする丁寧な説明の時間がとりにくかったりというやりにくさを感じている。

このような問題ややりにくさは何が原因なのかを理解するため、またカリキュラムの改善の参考にするための第一歩として、本校入学以前の日本語学習の詳細について、また本校入学時に1、2組の幅広いレベルの学生が何を期待していたのか、今は何を期待しているのか、また不満はあるのか、あるとしたらどんな不満かなどを知るためにアンケート調査を行った。本稿はこのアンケート結果について報告するものである。

2. 勉強アンケート

2-1. 勉強アンケートの概要

2022年7月22日、夏休み前の最後の授業日に実施した。アンケートは google forms で作成、google classroom から配信、対面授業で協力をお願いをした。^{注(2)} 1、2組の在籍学生23名のうち回答があったのは14名であった。回答者の国籍はブラジル(3)、ミャンマー(2)、インドネシア(2) ベトナム、タイ、スウェーデン、ロシア、マダガスカル、インド、カナダ(各1)である。

2-2. 調査結果

2-2-1. 本校に入学する前の日本語学習

質問1 今回の留学の前にどのくらい日本語を勉強しましたか。

(例) 300時間ぐらい、週に5時間3年間)

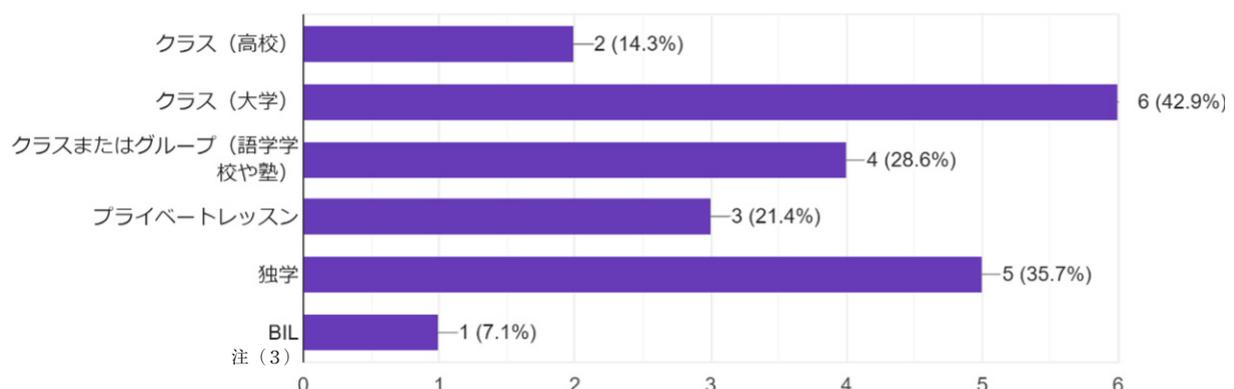
この質問は日本語学習期間を聞いたものである。最も長い学生で10年が2名、次いで5年が2名、4年が2名、3年が1名、2年が3名、1年が2名という回答が得られた。そのほかに日系の学生2名が「日本の小学校で3年ちょっと勉強し、国の日本語学校でも2年、その後、留学が決まるまでは独学」「子供のころ習ったので自然に上達した」と回答した。例を示して時間数も答えてもらいたいと考えていたが、特に学習期間が長い学生は学習時間が一定でなく〇時間と回答するのが難しかったようで、時間数を答えてくれた学生は1名のみで5年間週20時間という回答だった。

時間数は把握できていないが、学習期間は1年から10年と大きな幅があり、学習時間も同様に幅が大きいと推測できる。1、2組の学生はコースのスタート時から日本語力に幅があることは感じていたが、それは学習期間及び学習時間の幅が大きいことによる影響も大きいだろう。

質問2は選択肢から複数選択で答えてもらった。

2 国での勉強の形態(けいたい)は次のどれですか。☑してください。

14件の回答



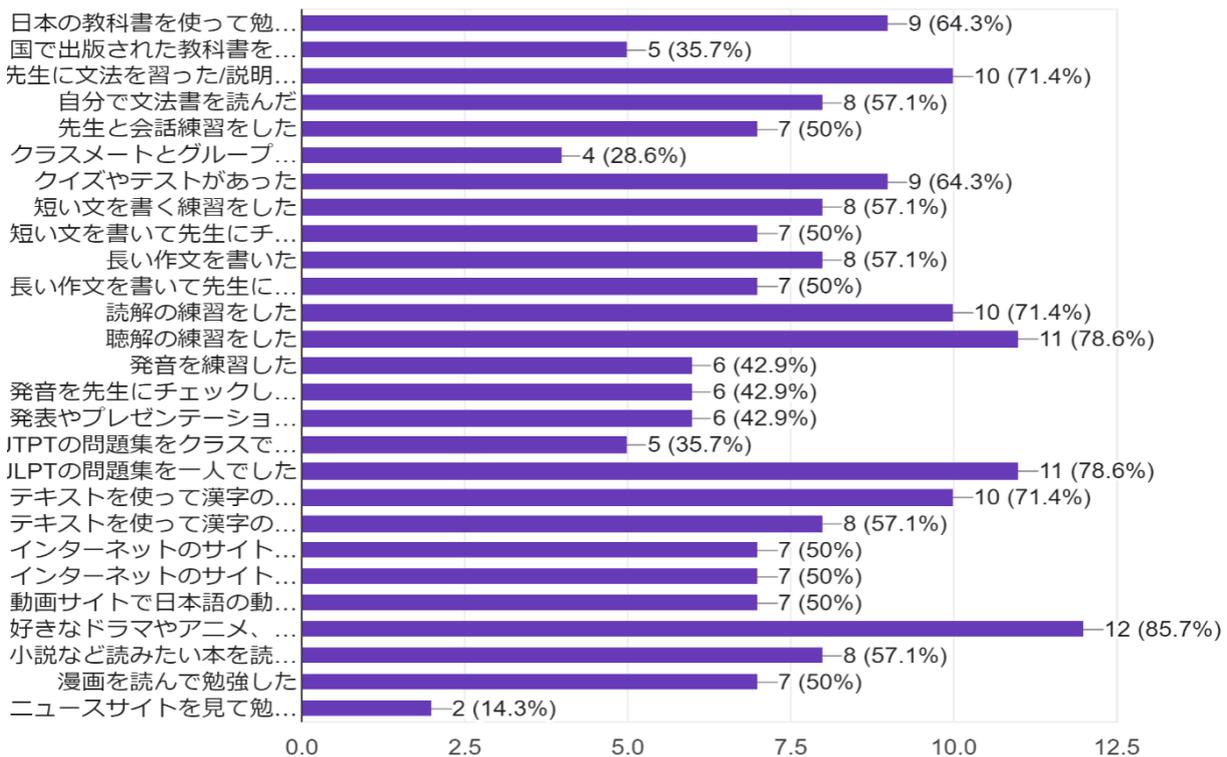
学習期間が長期にわたる学生は複数回答が多い。クラス（高校）、クラス（大学）、独学の3つにチェックが入るといった具合である。独学と答えた学生は5名だが、独学のみで学習してきた学生は2名だった。ほかの3名は高校や大学のクラスで勉強した後独学で学習を続けた。またクラス（大学）、クラスまたはグループ（語学学校や塾）、プライベートレッスンと回答した学生もおり、国で精力的に日本語を学習していたことが推測できる。

2010年代中盤までは独学で学習した学生は文法用語を知らなかったりしてクラスワークに若干の支障が出る場合もあったが、それ以降はインターネット上でさまざまな文法解説動画や授業動画が見られるようになったこともあって、ほかの形態で学習してきた学生と特に大きな違いはないように思われる。むしろ能力値が高いからこそ独学で上級レベルまで学習できたのだと思われるケースもある。

質問3も複数回答可で選択肢から選んでもらった。

3 国でしたことがある勉強を☑してください。

14件の回答



選択肢は上から次の通り。

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1. 日本の教科書を使って勉強した | 9. 短い文を書いて先生にチェックしてもらった |
| 2. 国で出版された教科書を使って勉強した | 10. 長い作文を書いた |
| 3. 先生に文法を習った/説明してもらった | 11. 長い作文を書いて先生にチェックしてもらった |
| 4. 自分で文法書を読んだ | 12. 読解の練習をした |
| 5. 先生と会話練習をした | 13. 聴解の練習をした |
| 6. クラスメートとグループやペアで会話練習をした | 14. 発音を練習した |
| 7. クイズやテストがあった | 15. 発音を先生にチェックしてもらった |
| 8. 短い文を書く練習をした | 16. 発表やプレゼンテーションをした |

- 17. JLPT の問題集をクラスでした
- 18. JLPT の問題集を一人でした
- 19. テキストを使って漢字の勉強をクラスでした
- 20. テキストを使って漢字の勉強を一人でした
- 21. インターネットのサイトで文法を勉強した
- 22. インターネットのサイトで漢字を勉強した
- 23. 動画サイトで日本語の動画を見て勉強した
- 24. 好きなドラマやアニメ、映画を見て勉強した
- 25. 小説など読みたい本を読んで勉強した
- 26. 漫画を読んで勉強した
- 27. ニュースサイトを見て勉強した

選択肢は筆者が本校の授業や過去の学生の話等を参考に作成したものである。

「したことがある」の回答が多いものは「小説など読みたい本を読んで勉強した」(12名)「聴解の練習をした」「JLPT の問題集を一人でした」(11名)、「先生に文法を習った/説明してもらった」(10名)が上位3項目、下位2項目は「ニュースサイトを見て勉強した」(2名)、「クラスメートとグループやペアで会話練習した」(4名)、次が「国で出版された教科書を使って勉強した」、「JLPT の問題集をクラスで勉強した」(5名)であった。上位2項目が誰でもできることであるのに対し、下位の「クラスで」とある項目は「独学やプライベートレッスンの場合はそもそもできないものである。

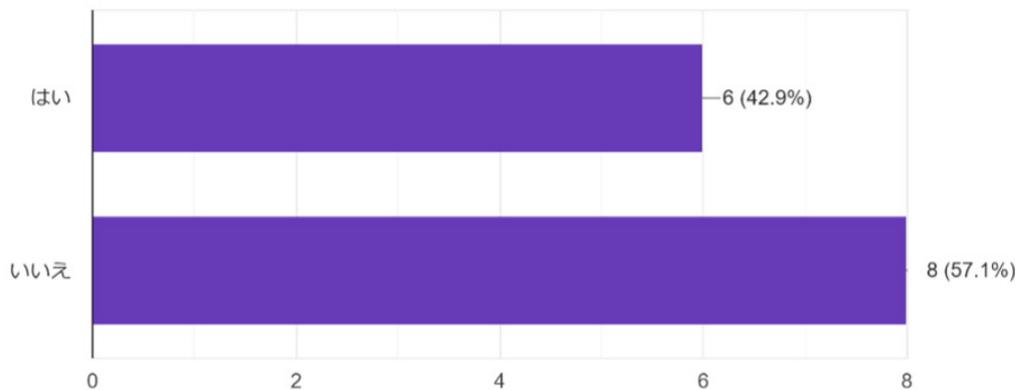
また個人でいくつの項目にチェックを入れたか調べてみたが、全27項目の中、最多が25項目、最少が2項目、平均で15.4項目であった。全体的に「したことがある」の比率が高い印象だが、個人差も大きい。調査前にこれは国ではあまりやってないのではと筆者が考えていた「作文や発音を先生にチェックしてもらおう」や「発表やプレゼンテーション」も決して多くはないものの半数以上の学生がチェックを入れていた。

全体に大学や高校等でクラスやグループで勉強しつつ、一人で問題集で勉強したり、自分が好きな分野のドラマ、アニメ、本を見たり読んだりして意欲的に日本語を学んでいたことが想像できる。もちろん個人差も大きく、作文関係の勉強は国では無経験の学生や、全体に受け身の学習が中心になっている学生なども存在するが、全体としては調査前に想定していたより、いろいろな勉強を国でしてきた学生が多いという印象を持った。

質問4・質問4+ 以前の日本での留学経験について

4. 今回留学する前に日本に留学したことはありますか。

14件の回答



質問4・質問4+は、今回の留学以前の留学経験について問うた。経験ありの学生が6名と多くなっているが、今回回答してくれた14名の中に留学経験がある学生がすべて入っているので実際のクラスの比率でいえば23名中6名ということになる。

質問4+

4+ 「はい」と答えた人はその留学について教えてください

例) 1年間高校ホームステイ 3か月

ホームステイをしての高校留学を経験した学生が3名、(1年2名、1年半1名)、3か月の短期で日本語学校に留学した経験を持つ学生が1名、そのほか2021年度に本校で1年学習した学生が1名であった。そのほかに留学ではないが親の都合で日本で9年生活していた学生もいた。

今年の学生はこのような結果だったが、2019年度から2021年度には日本語学校で1年学習した学生や、長期に日本で暮らし、小学校や中学校は日本の学校に通っていた学生もいた。留学体験のある学生は日本語の口語表現にたけ、言葉以外の生活情報といったものも多く持ち合わせているケースが多いようだ。

質問5 国での勉強で足りないと思うことはどんなことですか

この質問は自由記述で回答してもらった。結果は以下のとおりである。

- ・会話・発音関係 (6名)
 - 話す練習の機会がなかった
 - 会話の練習時間が足りなかった
 - 話し相手があまりいなかった
 - 発音練習が足りなかった
 - 日本人じゃなくて国の先生だったので発音は日本人とは違った
- ・専門用語 (2名)
- ・作文関係 (2名)
 - 作文を書くこと
 - 作文をチェックしてくれる人がいなかった
- ・クラス関係 (2名)
 - 日本語のレベルが違う学生が同じクラスだった
 - 皆のレベルがバラバラだった
- ・そのほか (各1名)
 - 似ている言葉の違いがあまりわからなかった
 - 授業内容がJLPTに偏っていた
 - 発表、プレゼンテーションの練習
 - 漢字の練習

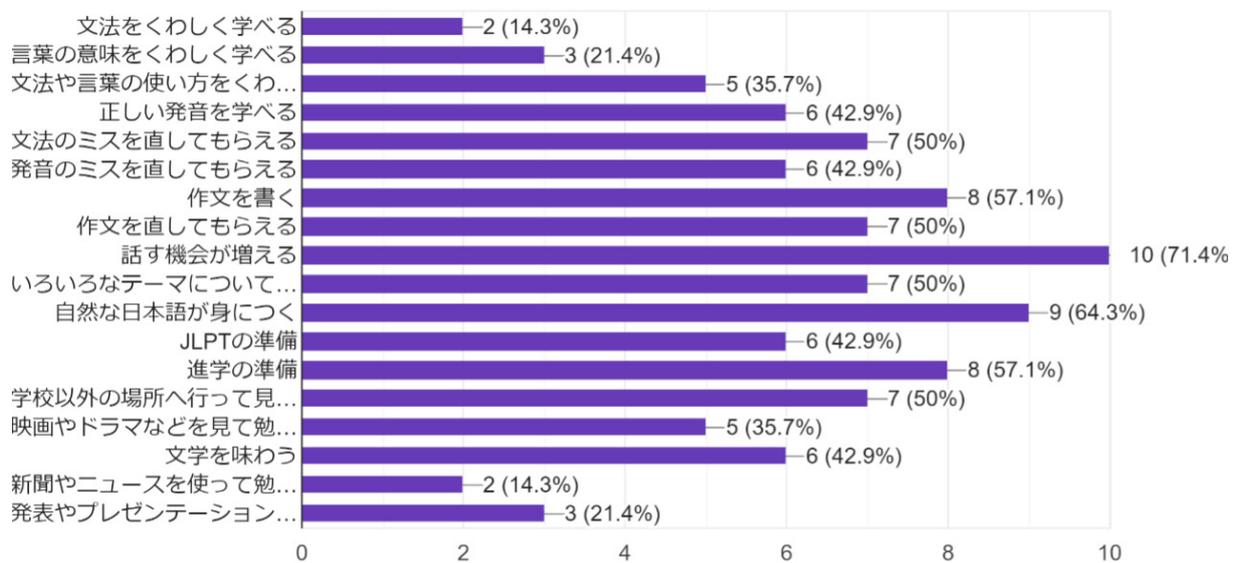
会話の練習機会の不足や話し相手の不足をあげた学生が多かった。本校の1、2組の学生のレベル差はかなり大きいと筆者は感じているが、学生自身は学生の母国のクラスと比べればレベルはそろっていると思えるのかもしれない。コース開始時からクラスで嬉々として日本語でおしゃべりをする学生の姿を見るが、それは国で不満に感じていた話し相手の不足やレベル差が解消されたことによるのだろう。

2-2-2. 日本での日本語学習について

質問6では日本での勉強に特に期待することを選択肢から複数回答可でチェックしてもらった。

6 日本に来る前、日本で勉強することに関して特...ありますか。あてはまるものに☑してください。

14件の回答



選択肢は上から次の通り。

- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| 1. 文法をくわしく学べる | 10. いろいろなテーマについて話せる |
| 2. 言葉の意味をくわしく学べる | 11. 自然な日本語が身につく |
| 3. 文法や言葉の使い方をくわしく学べる | 12. JLPTの準備 |
| 4. 正しい発音を学べる | 13. 進学の準備 |
| 5. 文法のミス直してもらえる | 14. 学校以外の場所へ行って見学したり勉強したりする |
| 6. 発音のミス直してもらえる | 15. 映画やドラマなどを見て勉強する |
| 7. 作文を書く | 16. 文学を味わう |
| 8. 作文直してもらえる | 17. 新聞やニュースを使って勉強する |
| 9. 話す機会が増える | 18. 発表やプレゼンテーションをする |

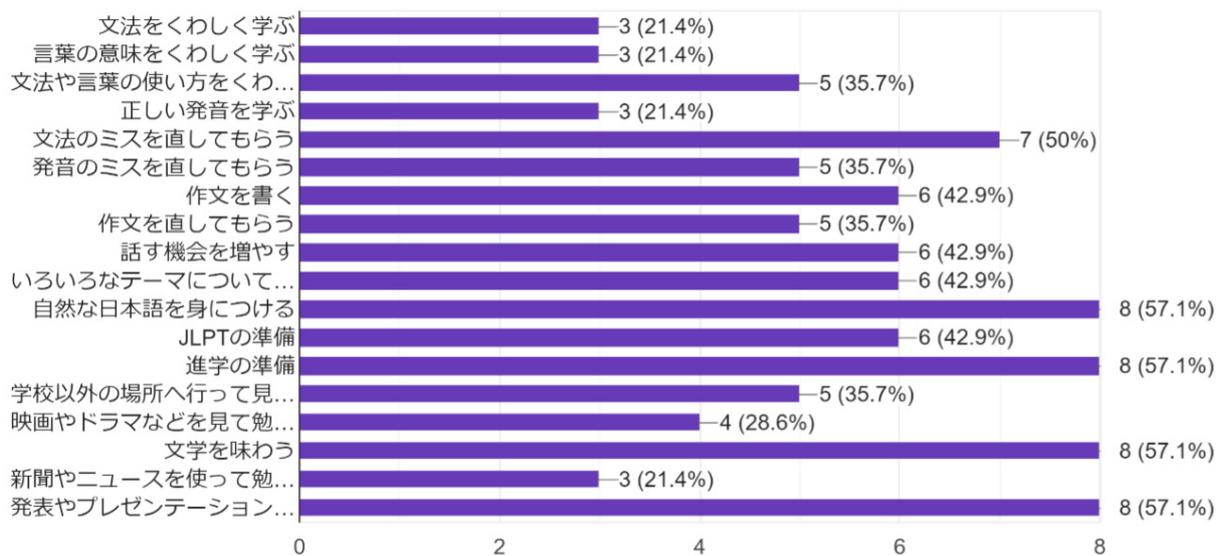
上位3項目は「話す機会が増える」(10名)、自然な日本語が身につく(9名)、作文を書く(6名)で、下位は「新聞やニュースを使って勉強する」と「文法をくわしく学べる」がともに2名、「言葉の意味をくわしく学べる」「発表やプレゼンテーションをする」がともに3名であった。

「話す機会が増える」ことを特に期待する学生が多いのは質問5の結果にも関連している。日本で勉強し暮らせば「自然な日本語」が身につくと考える学生が多いのも自然なことだろう。下位の項目については現在1、2組の授業で比較的多くの時間を割いているものであるが、来日前にはあまり期待されていなかったようだ。

質問7では今、必要と思われる勉強について聞いた。複数回答可で選択肢から選んでもらった。

7 今、もっと必要だ、もっとしたい、してほしい...ことですか。あてはまるものに☑してください。

14件の回答



質問7の選択肢は質問6と同じ選択肢を一部若干表現を変更し提示した。質問6とほぼ同じなので省略する。質問6は「日本へ来る前に特に期待していたこと」であるのに対し、質問7では「今、もっと必要だ、もっとしたい、してほしい」ことを問うているため、ここでは変化したものに注目したい。

プラスの変化が2名以上だったのは次の2項目であった。

発表やプレゼンテーションをする (3名→8名)

文学を味わう (6名→8名)

一方マイナスの変化が2名以上だったのは次の5項目であった。

話す機会を増やす (10名→6名)

正しい発音を学ぶ (6名→3名)

作文を書く (8名→6名)

作文を直してもらおう (7名→5名)

学校以外の場所へ行って見学したり勉強したりする (7名→5名)

プラスの変化が大きかった「発表やプレゼンテーションをする」だが、1、2組の学生コー

スのスタート時からアンケート実施時の間に何度かプレゼンテーションや発表を経験した。入学前にはこの項目を期待していなかった理由は不明だが、「やってみたら以外に難しかった」、「クラスメートの発表を見て自分はまだまだだ」などと考え、もっと練習する必要があるようになったのではないか。もう一つの項目「文学を味わう」についてはアンケート実施直前に詩の授業を行ったため、その影響があったのではないかと思われる。

マイナスの変化が多かった項目の中で「話す機会を増やす」「作文を書く」「作文を直してもらおう」は授業で充足された部分が大いのではないかと考える。発音については授業であまり扱っていないが「正しい発音を学ぶ」ことを期待する学生が減ったのはクラスメートの発音に触れて、発音の優先度が下がった可能性が考えられる。

変化の理由は憶測でしかないが、本校での学習の何かが影響して起こった変化だとは言えるだろう。

2-2-3. 上級レベルの日本語学習で大切なこと

質問8では最後に「上級レベルの日本語の勉強で、いちばん大切なことは何だと思うか」を自由記述してもらった。回答はいろいろであり、一番大切なことと聞いていたが複数のことを記述した学生もいた。結果は以下にまとめる。

・日本語のスキルや日本語の知識に関すること

読解

文法を学ぶこと

漢字の読み方と意味

語彙

言葉の使い方と意味をよく理解する

言葉や文型の微妙な違いもわかるようになること

文法や語彙はもちろん日本でその言葉や表現はどんな場面で使われているか正しく知ること

・自然さやコミュニケーションに関すること

自分が言いたいことを自然に伝えること

日本語の自然さが分かるようになること

自分の複雑な思考を言葉にできること

教科書や作文より相手が自分の言いたいことを理解できるように上手にコミュニケーションできるようになること

・勉強に関すること

努力

練習と復習

根気と根性、柔軟な思考

日本語を勉強するだけでなく日本語で勉強することができるのでおもしろいが、もっと勉強しなければならない

日本語のスキルや日本語の知識に関することは、単純に「自分には足りない」と思って答えているものと、それから一步進んでより微妙な違いや使われる場面を意識した回答があった。

自然さやコミュニケーションに関することについては、学生が日本での勉強に期待していた「自然さ」に関しての記述や現実のコミュニケーションを体験して必要性を感じたことが見て取れる。

勉強に関することに関する回答は、外国語を上級レベルまで習得することは容易なことではなく、根気や根性、努力がなければできないことであるという理解があることを示している。また実際今までも忍耐強く努力してレベルアップしてきたという経験があるからこのような回答があるのだろうと考えられる。

3. おわりに

「勉強アンケート」の結果から、1、2組の学生の本校での学習開始前の日本語学習について、より詳細に知ることができた。そして、そのことは学生たちの本校での学習や学習に関する考えをより深く理解するための助けになった。

母国で意欲的に日本語学習に取り組み、レベルアップを成功させたうえで入学してくる1、2組の学生には、本校でもそれまでの彼らの意欲や努力に十分応えうる学習を提供していく必要があることを改めて確認した。

今後はアンケート結果も参考にし、上級クラスの学生に対する効果的な学習アプローチの方法を考えていきたい。

注

- (1) 2017年以降1、2組の2クラス体制となっている
- (2) 2022年7月時点でコロナ対策のため1週間に3日の対面授業、2日のオンライン授業を行っていた。
- (3) 質問には国であるとあるが4月にこのコースで勉強する以前という意味でBIL（本校）という選択肢も示し、昨年度本校の別のクラスに在籍した学生があてはまるようにした。